

安政2年（1855）5月、当時42歳の津山藩主松平齊民は隠居して確堂と称しました。その3年後の安政5年（1858）、対外関係をめぐる揺れる幕府では、開国をめざしていた井伊直弼が大老に就任します。井伊直弼は大老として外交政策や將軍継嗣問題での反対派を強硬に押さえ付け、厳しく処分しました（安政の大獄）。

そのころ直弼は、確堂に幕政への参画を依頼しています。これは単なる役職への就任ではなく、徳川幕府の根幹にかかわる問題でもあったのです。井伊直弼が大老に就任したころ、徳川御三家では水戸家と尾張家の当主が謹慎中、紀伊家は養子嗣が継いだばかり。御三卿では一橋家が謹慎中、清水家は当主不在で空き家。頼りになるのは田安家のみという状況でした。

外交政策をめぐって、徳川の一門をはじめ多くの有力大名を反対勢力としてしまった直弼にとって、徳川の血を引く人物がぜひとも必要でした。そこで直弼は田安慶頼の指示を受けながら、御三卿の1つである清水家を確堂に継がせて、幕府内部での有力な協力者としてしようとしました。

これは、徳川第11代将軍の子という確堂の出自のみならず、嘉永6年（1853）のペリー来航時における確堂の先進的な意見書が大きく影響していると思われまます。多くの大名が攘夷・鎖国の継続を唱える中、確堂は世界情勢を的確に分析したうえで開国通商の必要性を説いたのです。朝廷や大名たちの強い反対を押し切って、日米修好通商条約を締結した直弼にとって、こ

津山城百聞録

～井伊直弼と確堂～



松平 確堂

れほど強い味方はなかったはずですが。

直弼は確堂にあてたその書状の中で幕府の危機的な状況を述べ、国家のために働くよう確堂に求めています。確堂はその求めに応じませんでした。確堂は病気を理由として隠居したのであり、また「大した能力のない自分が出る幕ではない」と返事をしたうえで、しかし「徳川の一門として最大限の協力はする」と述べています。

それに対し、直弼と田安慶頼はあきらめることなく再度の依頼に及びます。そのときの直弼の書状では再び確堂の参画の必要性が強く説かれ、病身には十分配慮すること、また、謙遜も時と場合によるとの言葉もあります。しかしそれでも確堂は辞退したのでした。資料からはこれ以上の確堂の本心はわかりません。その後のようすから見ても、確堂は長生きはしたものの持病があったことは事実のようです。

ただ、この話はこれで終わりではなく、むしろ始まりなのです。この後、明治維新の激動の中で、確堂は徳川家の存続そのものに大きくかわることになります。

2月中のひとの動き

人口	111,398人(前月比+22)		
男	53,166人(同+12)		
女	58,232人(同+10)		
世帯	43,104世帯(同+68)		
転入	243人	転出	218人
出生	82人	死亡	85人

(3月1日現在)

つ・ぶ・や・き

編集室

雪深い山奥に移り住み、厳しい冬を体験するようになってからは春のありがたさを特に感じます。今年一番に口にするフキノトウなんかは最高1年をとるほどに味わいは深くなるのではこのことか？(X)

台湾の新聞(蘋果日報・3月12日付)に日本の桜の特集記事があり、「岡山の(岡山)の鶴山公園」「日本賞櫻百選名所(桜の名所100選)」と紹介されました。台湾からたくさん観光客が来てくれるといいですね。(鉄)

そういえば、鶴山公園で中国から来た花見客のグループに遭遇したことがありますよ。仕事で大阪に来て津山まで足を伸ばした、とのことでした。たくさん観光客が来られるこの時期、温かくお迎えしたいものです。(e)

つやま 広報

4月



編集・発行(毎月10日発行)
津山市企画部行政広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください